

# simc News Letter

Sendai International Music Competition

2024年3月20日号

## 仙台国際音楽コンクールニュースレター

### 第9回仙台国際音楽コンクール

【開催日程】ヴァイオリン部門:2025.5.24(土)~6.8(日) ピアノ部門:2025.6.14(土)~6.29(日)

#### 第9回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門課題曲 解説／片桐卓也(音楽ライター)

クラシック音楽のソリストとして活躍する演奏家はかなり協奏曲を弾く機会が多くなる。それも様々なタイプの協奏曲を弾かなくてはならない。バロック時代にはヴィヴァルディやJ.S.バッハの作品があり、古典派のモーツァルトやベートーヴェン、ロマン派ではヴァイオリン協奏曲の定番とも言えるメンデルスゾーン、ブラームス、チャイコフスキーなどの傑作が控え、20世紀に入ってもバルトーク、ショスタコーヴィチなどの難曲がある。それぞれの作品が書かれた時代によって、音楽のスタイルそのものが違うので、作曲家の個性だけでなく、時代背景や音楽形式への理解も重要になって来る。そうした点を考えると、協奏曲を課題曲の中心としている仙台国際音楽コンクールは実はとても高いハードルを設定していると言えるし、そこを乗り越える努力もまた求められる。だからこそ、そのコンクールを聴く立場としても興味深い経験となる。第9回のヴァイオリン部門の課題曲を順に見て行こう。

まず、動画による予備審査の段階でもヴァイオリンのソロ曲の他に、モーツァルトの5曲のヴァイオリン協奏曲の中から1曲を選択し、その第1楽章をピアノと演奏することが求められる。そしてそこを通過した若者たちが仙台に集う。

仙台での〈予選〉はモーツァルトの「アダージョ ホ長調 K261」と「ロンド 八長調 K373」を、指揮者なしでオーケストラと演奏する。「アダージョ」のほうは1776年の終わり頃、ザルツブルクで作曲されたと想定される作品で、「ヴァイオリン協奏曲 第5番」の第2楽章のもうひとつのバージョンと考えられている。初演者ブルネッティのために急いで作られたとされるが、奏者に合わせて作品を作り直すのはこの時代にはよくあったこと。「ロンド」のほうは1781年ウィーンでの作品だが、初演したのはやはりブルネッティだった。ザルツブルクの大司教(当時のモーツァルトの上司)コロレドがウィーンに滞在している時に書いた作品で、かなり好評だったため、モーツァルトはウィーンで自立して活動して行く自信を深めたとされる作品でもある。指揮者なしでの演奏というのも特に若いヴァイオリニストにとってはハードルの高いものだが、そこで自分の音楽性とアンサンブル能力をどう発揮するかが楽しみである。



もうひとつの予選の課題曲は近代ベルギーの天才ヴァイオリニスト、イザイによる「無伴奏ヴァイオリンソナタ 第5番 長調」である。全6曲の「無伴奏ソナタ」(1923~24年にかけて作曲)はすべて当時のヴァイオリニストに献呈されているが、この「第5番」は弟子であったクリックボームに献呈された。第1楽章は「オーロラ(日本では曙光と表記されることも)」で色彩感に溢れた音楽であり、第2楽章は「田舎の踊り」で素朴な舞曲をベースにした音楽である。モーツァルトとは対照的に、近代的なヴァイオリンのテクニックを駆使した作品であり、ヴァイオリニストの個性がよく分かる課題曲であると思う。

〈セミファイナル〉ではメンデルスゾーンとドヴォルザークというロマン派時代の名協奏曲の中から1曲を選び、モーツァルトの「カッサシオン K63」から「アダージョ」、ブラームスの「交響曲 第1番 第2楽章」から指定箇所をオーケストラのコンサートマスターとして演奏する。メンデルスゾーンはヴァイオリン協奏曲の定番と言えるし、ドヴォルザークの協奏曲も最近では演奏会数が増えている作品。ロマン派といえども、それぞれの作曲家のバックグラウンドは違っているので、そこをどう理解して弾くかに注目したい。コンサートマスターとしての課題曲ではモーツァルトの「カッサシオン」が珍しい。モーツァルトが生きた時代に流行した「カッサシオン」は様々な機会のために書かれた多楽章形式の合奏曲で、「K63」は1769年夏の作品。全7楽章あり、指定された第5楽章アダージョにはヴァイオリンのソロも含まれる。モーツァルト13歳の作品とはいえ、その成熟した音楽性を表現してほしい。ブラームスの「交響曲 第1番」はすでにお馴染みのはずで、とても印象的なコンサートマスターによるソロ部分を聴くことになる。



ファイナルではまずモーツァルトの5曲の「ヴァイオリン協奏曲」の中から1曲を選ぶ。モーツァルトの「ヴァイオリン協奏曲」は彼の10代最後の作品だが、父レオポルトが優れたヴァイオリン教本を出版しているように、楽器の扱い方、その音楽性において18世紀の最高峰のヴァイオリン曲と言っても良い。現代のヴァイオリニストもその音色、音楽性をすべて試される作品である。そしてもう1曲は、ベートーヴェンからショスタコーヴィチまでの傑作の中から選ぶ。よく知られた作品ばかりだが、シューマン、エルガーなど、それほど演奏機会の多くない作品も含まれている点が興味深い。

駆け足で第9回の課題曲を見て来たが、前回よりもさらに多様な課題を求められるコンクールになったと個人的には思う。チャレンジする若者たちの意欲に期待したい。



## 第9回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門概要

- ・開催期間:2025年5月24日(土)~6月8日(日)
- ・会場:日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)
- ・出場資格:1995年1月1日以降に出生したものの
- ・運営委員長:植田 克己
- ・審査委員長:堀米 ゆず子
- ・申込受付期間:2024年7月10日(水)~10月23日(水)
- ・審査構成:コンクールは予選、セミファイナルおよびファイナルの各審査段階で構成する。コンクールの出場者を決定するために、動画データ等による予備審査を行う。
- ・オーケストラ:

### 【予選】

仙台フィルハーモニー管弦楽団及び山形交響楽団(指揮者なし)

### 【セミファイナル、ファイナル】

仙台フィルハーモニー管弦楽団(指揮:広上 淳一)

## ◆課題曲

### 予選

2025年5月24日(土)~5月26日(月)  
[独奏・オーケストラとの共演]

次の①②の両方を演奏する。

- ①モーツァルト:アダージョ ホ長調 K261  
ロンド 八長調 K373
- ②イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第5番 ト長調 op.27-5

### セミファイナル

2025年5月30日(金)~6月1日(日)  
[オーケストラとの共演]

次の①~③を演奏する。

- ①次の曲目から1曲を選択すること。  
メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64  
ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.53
- ②次の曲目をオーケストラのコンサートマスターとして演奏する。  
モーツァルト:カッサシオン ト長調 K63 から V. アダージョ
- ③次の曲目をオーケストラのコンサートマスターとして演奏する。  
ブラームス:交響曲 第1番 ハ短調 op.68から 第2楽章の指定箇所

### ファイナル

2025年6月5日(木)~6月7日(土)  
[オーケストラとの共演]

次の①②の両方を全楽章演奏する。

①次の曲目から1曲を選択すること。

- モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲 変ロ長調 K207  
ヴァイオリン協奏曲 二長調 K211  
ヴァイオリン協奏曲 ト長調 K216  
ヴァイオリン協奏曲 二長調 K218  
ヴァイオリン協奏曲 イ長調 K219

②次の曲目から1曲を選択すること。

- ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61  
パガニーニ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 op.6  
メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64  
シューマン:ヴァイオリン協奏曲 二短調  
ラロ:スペイン交響曲 二短調 op.21(全5楽章)  
ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77  
サン=サーンス:ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 op.61  
ブルッフ:スコットランド幻想曲 op.46  
チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35  
ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.53  
エルガー:ヴァイオリン協奏曲 口短調 op.61  
シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47  
バルトーク:ヴァイオリン協奏曲 第2番 Sz112  
ストラヴィンスキー:ヴァイオリン協奏曲 二調  
ベルク:ヴァイオリン協奏曲  
プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 op.19  
ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 op.63  
ショスタコーヴィチ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 op.77